

お札

A Note



通信ソサイエティ会長 大槻知明

先日、イングランド銀行が、新 50 ポンド紙幣の肖像にアラン・チューリングを採用したと発表しました。また、コンピュータサイエンス分野のノーベル賞として知られる「チューリング賞」の 2018 年の受賞者に、ジェフリー・ヒントン、ヤン・ルカン、ヨシュア・ベンジオの 3 氏が決まりました。受賞理由は、ディープニューラルネットワークがコンピューティングにとって重要な要素技術になるまでに、人工知能（AI）分野における概念及び工学的なブレークスルーを生み出したことです。これらアラン・チューリングに関連するニュースからも分かるように、今日、様々な分野で AI が注目されています。AI は多くの応用例で、人間を凌駕する性能を示しています。囲碁や将棋では、世界トップレベルのプロ棋士に勝利しています。また、画像認識精度の高さから、自動運転や産業用ロボット、医療分野など様々な分野で応用が期待されています。

現在の AI ブームは 3 回目のもので、これまでの AI ブームに比べて、今回、AI が実社会で使われ始めたのには、様々な要因があります。その大きな要因として、ビッグデータの収集が可能になったこと、それを処理する深層学習などのアルゴリズムが進展したこと、アルゴリズムの実装に適した GPU が高速かつ安価になったこと、などの技術的発展が挙げられます。AI 技術は、情報学だけでなく、脳科学、物性科学、電子工学ほか、様々な学問分野にまたがっています。また、先に述べたように、AI は様々な分野で期待されています。

このように、技術やその応用が様々な分野にまたがっている今日、学際的な取り組みがますます重要になってきています。通信ソサイエティでは、昨年度から「革新的無線通信技術に関する横断型研究会（MIKA）」、今年度から「超知性ネットワーキングに関する分野横断型研究会（RISING）」などの、複数の研究会やソサイエティにまたがる研究会を始めました。また、通信ソサイエティを中心として電子情報通信学会全体で、機械学会などと学会をまたがる活動も始めています。本会が引き続き社会に貢献していくためには、今後、このような学際的活動を更に進めていくことが重要です。

最後に、お札と言えば、日本でも 2024 年に紙幣が刷新・発行されることが発表されました。一万円札の肖像は、福澤諭吉から渋沢栄一に変わります。渋沢栄一は、株式会社制度を普及させるなど、「近代日本資本主義の父」として知られています。大きな社会変革が起きている現在に、正にふさわしい採用と言えるでしょう。また、2024 年まで引き続き使われる福澤諭吉も、近代日本の思想的啓発と教育の実践で知られており、その精神は引き続き重要であり続けるでしょう。福澤諭吉は、「学問のすゝめ」の中で、「学問の道に於て、談話、演説の大切なるは既に明白にして、今日これを実に行ふ者なきは何ぞや」と述べています。福澤の言う「学問」とは、「学習」とは区別され、また単なる実用の学ではない「実学（サイヤンス）」、すなわち「科学」であり、知識を単に学ぶのではなく、問題を発見し、仮説を立てて検証し、結論を導いていくという、新しい知識の創造を指しています。

本会が、「談話」や「演説」の場を提供しながら、「学問」そして「人間交際（ソサイエティ）」の発展に寄与できるよう努力していきたいと思ひます。